



伊世物語古意  
字六  
石





伊勢物語 古く名実を云

むし田村のみくごまき  
兼子と申すなり



のむし田村のみくごまき



岩波文庫

文徳天皇崩すを以て山城公著聖教田邑に其系立す天安二  
年八月葬すすなりと云り田むらりのむかひに申すこの女也

文徳天皇崩す嘉祥三年七月有系部氏多岐兼子為女御也

又三代交縁乃天安二年十一月八日從四位下有系部氏多

加兼子率多岐兼子表右大臣從二位良相之才一女也

轉孫

そはつぎふりて後の所安福ちとてやむの所とむりし

けり

安祥寺 文徳實録ニ齋衡二年六月詔以安祥寺預於定額云  
代實録貞觀元年四月ニ縁皇太后御願置安祥寺年分度者二人

願文曰云延喜玄蕃式云凡安祥寺果階業僧補諸國講  
讀師云後人より此てらハ少科あり古来后順子の連うハ  
りとのわごとハ改れ多うして日乃清平とてては伝平  
をいふ

くはなありてさきけ物子はくもつわ本の枝うらまて  
きりまに多てしれど山もまうさうは前ううさよ  
あつる様よなんんん

今午の細いきりたお  
まらうはきりたお  
てきりたお  
あつる様よなんんん

今午の細いきりたお  
まらうはきりたお  
てきりたお  
あつる様よなんんん

親二年おちねとなりてはれ女依の兄者うかまきり  
講のきりたお  
あつる様よなんんん

今午の細いきりたお  
まらうはきりたお  
てきりたお  
あつる様よなんんん

山の峰うらりてはれ女依の兄者うかまきり  
あつる様よなんんん





昔其をくらうかよ切として是をこそと為給にらして其れはく家の  
 女をよきなりつけしもの成後よち其れを信てたるは  
 お伴あはしつゝもてするらんよてすしなるし けあふ二所  
 右大將右馬寮を司とす  
 右馬頭を相伴とす  
 其れをよき思ふぞかあふをこそめんをえきんよけなるは  
 我をよき思ふらん其れをえしむならせんしあはるれを  
 夫れ代表してえきをえしむるは其れをよき思ふは  
 あふの侍とていふもこそ此れも記者の口  
 りかんとありけし

昔氏の中よりみを生れしふりけし

某の人何の氏もいふをわつけし氏の中より一はひ  
 せん業手相終るれをまのまに在系は乃中より一謂と  
 此皇太子ハ平太治代めのみ衣女子貞観十六年平清和の

三代実録ニ行平卿之女の皇子...

貞観初まをまてまてつねなる事

其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは

同は三皇太后の四十の...  
 外男母之冠等...

昔其の三日の夜なをなをりハ、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは

其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは

其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは  
 其れをよき思ふは、其れをよき思ふは、其れをよき思ふは

































たのきとてききり  
るおまのきとてききり  
いひつてききり

とよみりるまの郷きつてけるもくりげおをなれあしおのききり  
いひつてききり

石川郡女子今本  
女きりてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

あしおのききり

はかきりてききりしりきり

はかきりてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

かこもはあのつみなりけり

三代安海、其ま、元親  
五年二月、其、持佐  
六年三月、其、持佐  
行平、其、持佐  
左共、持佐  
左共、持佐  
左共、持佐

この時、其まおまおまのものを記し、あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり

あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり  
あしおのききり  
いひつてききり





吾等て主人に史より  
しるす所を記す  
其の人の名を  
記す

かくもは様いもわも一りしり〇言はれし事  
はしるす所を記す  
其の人の名を  
記す

此の事  
はしるす所を  
記す

此の事  
はしるす所を  
記す  
其の人の名を  
記す

此の事  
はしるす所を  
記す

此の事  
はしるす所を  
記す

よし干し海の時海の時  
はしるす所を  
記す

此の事  
はしるす所を  
記す



Handwritten text at the top of the right page, likely a title or header.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style.

Handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or date.

Main body of handwritten text on the left page, continuing the narrative or list.

Handwritten text at the top of the left page, likely a title or header.

Main body of handwritten text on the left page, written in a cursive style.

Handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or date.

昔もあつたやうな

昔のやうなやうな... 昔のやうなやうな

元々... 元々... 元々...

ちよ 打... ちよ... ちよ...

元... 元... 元...

あ... あ... あ...

あ... あ... あ...

或人... 或人... 或人...

あ... あ... あ...

あ... あ... あ...

わが身をとりこぼしにやまなほさるるはなはなほしるる

人きねの鏡もあはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

これこそのはなはな

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる

あはれなるひの神なまなまをさるる  
あはれなるひの神なまなまをさるる  
あはれなるひの神なまなまをさるる









